



著者 Fritz Riemann. 1902年ドイツ東部ケムニッツの裕福な家庭に生まれる。高校卒業後一時就職ののち1922年からミュンヘン大学で心理学を学ぶが、主流だった実験心理学に魅力を感じず中退、その後精神分析学と占星術に惹かれる。第二次大戦中兵役に服したのち、1946年ミュンヘンで「心理学および心理療法研究所」を創立（1974年「ミュンヘン精神分析および心理療法アカデミー」と改称）。1979年死去。

不安は私たちの人生の一部である。不安にうまく対処し、バランスの取れた人生を生きるためにはどうすればよいか。本書は深層心理学的な視点から不安を四つのタイプとそれに対応するパーソナリティに分類し、より良き対処法を豊富な例証と共に記述。1961年の初版以来今日まで100万部近くを売り上げた戦後ドイツのベストセラー。

不安とうつ相棒 四つのタイプとどう付き合えばよいか フリッツ・リーマン [著]・赤坂桃子 [訳]

◆四六判・335頁・定価2970円

【目次】

序論 不安の本質と人生の二律背反

コミットメントへの不安

スキゾイド・パーソナリティ

スキゾイドの人とその愛

スキゾイドの人とその攻撃性

生育史上の背景

スキゾイドの人の体験例

追加の考察

自己実現に対する不安

抑うつ性パーソナリティ

うつの人とその愛

うつの人とその攻撃性

生育史上の背景

うつの人々の体験事例

追加の考察

変化に対する不安

強迫性パーソナリティ

強迫性格の人とその愛

強迫性格の人とその攻撃性

生育史上の背景

強迫性格の人の体験例

追加の考察

必然に対する不安

ヒステリー性パーソナリティ

ヒステリー性格の人とその愛

ヒステリー性格の人とその攻撃性

生育史上の背景

ヒステリー性格の体験例

追加の考察

最終考察

10月25日発売

新たな旧約注解シリーズ開始!

イザヤ書注解I 1章—10章

ジャン・カルヴァン [著] 堀江知己 [訳]

10月25日発売

◆ A5判・590頁・定価 6820円

イザヤ書注解は1551年に出版された、カルヴァンの初めての旧約注解。改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、いかに真剣に預言書に取り組んだかが如実に伝わる。全5巻。

訳者 堀江知己 (ほりえ・ともみ)

1979年、前橋生まれ。東北大学文学部人文社会科学科(社会学専修)卒業。東北大学大学院文学研究科 文化科学専攻(ドイツ文学)中退。東京神学大学大学院博士課程前期課程(旧約聖書神学専攻)修了。日本基督教団堺教会伝道師・副牧師、福島教会牧師、能代教会牧師を歴任、2014年より前橋中部教会牧師。

訳書『オリゲネス イザヤ書説教』、『オリゲネス 創世記説教』、カルヴァン『アモス書講義』、カルヴァン『創世記Ⅱ』、カルヴァン『テモテ・テトス・フィレモン書』。

◆ カルヴァンの注解書から

アモス書講義 関川泰寛監修・堀江知己訳 ◆ A5判・390頁・定価 5500円

創世記Ⅱ 堀江知己訳 ◆ A5判・398頁・定価 4950円

牧会書簡

*発売が10月上旬にずれこみました。

【現代新約注解全書】

辻 学 著

◆ A5判・759頁・定価 9900円

牧会書簡と総称される「第一テモテ」「第二テモテ」「テトス」の3書簡は、パウロの名を借りたいわゆる偽名書簡である。この謎に満ちた書簡群を徹底的に読み解いた、世界最高水準の記念碑的注解書。『福音と世界』に70回にわたり連載された内容に加筆を施し、堂々完成。邦語で類書に乏しいきわめて貴重な労作。

◆ 同じ著者による既刊書

ヤコブの手紙 【現代新約注解全書】 ◆ A5判・300頁・定価 5500円

偽名書簡の謎を解く パウロなき後のキリスト教

◆ A5判・233頁・定価 2420円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

マルティン・ニーメラー ヒトラーに逆らった牧師「仮題」

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第一次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキスマニカルな場で活躍した激動の生涯。 四六判・予価3900円

【重版案内】

内田樹著

レヴィナスの時間論

レヴィナス思想の戦後の出発を告げる「時間と他者」。難解をもって鳴る同書を徹底的に精読することを通して、深い苦しみの時間を生き抜いたユダヤ人の希望の時間論が浮かび上がる。 2刷 四六判・定価2800円

袴田巖著／袴田巖さんを救う会編

主よ、いつまでですか 無実の死刑囚・袴田巖獄中書簡

殺人の冤罪で死刑を宣告され、獄中から無実を叫び続けた袴田巖さんが、真実の裁きを求めて綴った書簡。今年3月、東京高裁は静岡地裁の再審開始決定を支持、東京高検が特別抗告を断念し再審開始が確定したことを受けて急遽重版！ 6刷 四六判・定価1676円

トム・ハーバー作、中村吉基訳、望月麻生絵

いのちの水

昔々、誰もが飲めるいのちの水があった。しかし、その水に感謝するために建てた記念碑や礼拝堂がどんどん増築され、やがて泉を覆い隠してしまふた。泉を管理する人たちが現れ、誰がいつどのように飲めるのかについて論争が始まり……。宗教をめぐる痛烈な寓話。 3刷 B6判・定価1650円

● 9月に出た本と雑誌など

内村鑑三 闘いの軌跡

関口安義著



近代日本の生んだ最大の思想家内村鑑三の闘いの生涯を描く。克明な文献調査と足を使った事実調査に基づいてその生涯をたどり、新たな光を当てる。なお著者は本書の校正中に急逝したため遺作となった。

◆A5判・定価7975円

渡辺禎雄版画カレンダー

2024年版

絵柄は1984年の作品「よきサマリア人」。

◆定価660円



福音と世界

◆定価660円

10月号 飢餓と食物

寄稿者…エップ・レイモンド&荒谷明子、飯尾裕光、金井美彦、植木等、竹之内裕文、福岡揚／連載 今高義也、後藤里菜、飯田華子、金歌晃、長尾優、C・J・サンダース&A・ヤーバー、山崎ランサム和彦、山口陽一、勝村弘也

●九月一六日、日本キリスト教団東京教区北支区の主催により学修会「グローバル連帯史のなかの沖縄1972——連帯の脱植民地化に向けて」が四谷新生教会で開かれ、パートナーと一歳の子と一緒に参加してきました。講師は、『福音と世界』や『交差するパレスチナ』で何度も寄稿いただいている阿部小涼さん。

リスト教との接点の有無を問わず複数の運動や実践者のあいだに通う経絡のようなものとして『福音と世界』が機能してきたのだとしたら、それほどうれしいことではないと思います。(堀)

わたしが生徒のころからお世話になってきた阿部さんとは、この間 Zoom 上では何度もおしゃべりしてきましたが、対面ではじつに久しぶりの再会となりました。ただ、発題の内容をここで分かち合うことはできそうにありません。会場で年上の友だちに会えたこともあって、一歳の子は教会の庭で走り、転び、泥まみれになっての大興奮。それを見守るのに一杯で、ほとんど議論についていけなかったのです(胸に響いた言葉、印象深かった場面はいくつかあるのですが、それは心のなかに留めておきます)。しかし、それでも行ってよかったと思えたのは、阿部さんをはじめ、各方面での友人・知人たちが交わる場に居合わせることでできたからであり、またその友人・知人たちはみな何らかの形で『福音と世界』を支えてくれていたということであらためて実感できたからです。逆に言って、キ

●ABCアバコ・ブックセンター(二〇二二年一月)、BIBLE HOUSE びぶろすの森(二〇二三年三月)、北九州キリスト教ブックセンター(二〇二三年九月)、仙台キリスト教書店(二〇二三年九月)。——これらは、昨年从今年にかけて閉店したキリスト教書店です。改めて振り返ると、そんなに、と息をのむ思いです。「町の本屋さん」がどんどん減っていますが、キリスト教専門書店も例外ではありません。その原因は、読書人口の激減と購入窓口のネット化による書店経営の困難化、ということに尽きます。それでも対面型書店が私たちに提供してくる「実物との対面」「スタッフとの対面」はまだ大きな魅力と可能性を秘めているはず。嬉しいことに、仙台キリスト教書店の元スタッフ3名が、同じ場所です新たに「エッサイの木」という書店を立ち上げました。一〇月から営業していますので、地域の方々ぜひ御最真にしてください。(小林)

福音と世界

2023年
11

特集・東アジアにおけるキリスト教の可能性

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

現在と過去——魚木忠一のキリスト教精神史と類型論——藤本憲正

政治的の非戦論にみる日本キリスト教史——渡部和隆

研究の可能性——形成とプロテスト・キリスト教——朴銀瑛

周辺から中心に——西北人のアイデンティティ——徐亦猛

二〇世紀初期における中国キリスト教——藤原佐和子

本文化(土着化)運動——反エンダー運動に抵抗するアジアのプロテスト——

【好評連載】

◆八木重吉の聖書 5 ……今高義也

◆神と「女性的なるもの」を辿って 6 ……後藤里菜

◆グレート小林と3人の女 7 ……飯田華子

◆私は告白する、私の神を 8 ……長尾優

◆地域から考える在日朝鮮人史と教会史 8 ……金耿昊

◆教会におけるイコノグラフィ 19 ……山口陽一

◆「日本的キリスト教」を読む 22 ……山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書 23 ……山崎ランサム和彦

◆古代イスラエル文学史序説 33 ……勝村弘也